

アクションプランを活かした校内研究の在り方

学力の充実期を迎え、研究会や研修会も開催されています。
前期を振り返り、学力向上へのポイントとアクションプラン、校内研究の視点をまとめました。
アクションプランの目的は、

- 『全国学力・学習状況調査を児童生徒の学力や学習状況の把握・分析につなげる』
- 『学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる』
- 『教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する』

ですが、第1回学力向上研究協議会では、そのアクションプランを『校内研究や職員研修と一体的に捉えることでさらに有効に活用する』ことを提案しました。



アクションプランは 校内研究の目的と重なっている！

- ①育成をめざす資質・能力を明確にして
- ②学校組織として
- ③学校目標を具現化するためのPDCAサイクルを確立し、授業改善を確立する。

○働かせたい「見方・考え方」を明確に！

「全国学力・学習状況調査」の結果を分析することで、児童・生徒に付けなければならない資質・能力や、働かせたい「見方・考え方」が明らかになり、さらなる授業改善に繋げることができます。

「全国学力・学習状況調査」は、学習指導要領に示された児童・生徒に付けたい「資質・能力」や、働かせたい「見方・考え方」が身に付いているかを見取ることができる問題で構成されています。成果はもちろんですが、誤答分析することで児童・生徒の実態が明確になり、授業改善や学年末の補習に生かすことができます。

○全国学力・学習状況調査を有効に！

児童・生徒の実態に合わせた学力向上の取組みを客観的に捉えるための資料として「全国学力・学習状況調査」を活用し、PDCAサイクルを回すことで授業改善に生かすことができます。

自校の学力向上の取組みが効果的か「全国学力・学習状況調査」を客観的資料の一つとして活用できます。
アクションプランは、年に3回検証の時期を設定しています。(2月の検証は次年度へ向けて)この検証を校内研修や職員研修に位置付け、全職員で、共通理解して授業改善を行いましょう。

○校内研究もアクションプランも、児童・生徒の実態把握からスタート！

アクションプランのシートを活用して児童・生徒の実態把握をする時間を校内研修等に位置付けることで、校内研や学校目標の具現化に向けた取組みについて、全職員で共通理解し取り組むことができます。

全職員で、同じベクトルで研究を進めることで課題が解決できるはずです！

裏面にある「令和3年度 確かな学力を育むためのアクションプランの活用について」も併せてご覧ください。なお、学校にも送付されております。

研究協議会後のアンケート

○アクションプランと校内研究の関わりについて学ぶことができました。内容が共通していることが多く、それぞれを関連付けながら生徒に付けたい力や指導する側のアプローチを考えていくことが大切だと思いました。また、どちらも全職員で共通理解を図りながら進めていくことが、より効果を発揮できると感じました。

○アクションプランと校内研究は一つにつながっていると改めて実感しました。全国学調を客観的な資料として、どの問題が弱いのか、どう児童に指導していくのか等、「付けたい力」を明確にし、校内研究につなげて考えていきたいです。各学年だけでなく、系統性を意識しながら全職員で進めていきたいと思います。

○校内研究とアクションプランをつなげて考えていく重要性を感じました。子供たちの実態からアクションプランを考え、共有・活用することで、「生きる力」「確かな学力」をつけていきたいと思いました。

○正直、アクションプランについては、作成の大変さを感じたり作成してもうまく実践に生かせなかったりしていました。ですが、「子供につけたい資質・能力を明らかにするためのものである」さらに「学校目標を具現化するためのものである」と捉えたとき、その重要性を再認識しました。また、校内研と絡めて全職員で共通理解を図りながら進めることができれば、さらにその価値が高まると教えていただきました。自校で実践できるようにしていきます。

このような感想をたくさんいただきました。アクションプランの目的・意義を再確認することやアクションプランを校内研究に生かすことで、先生方のアクションプランに対する考え方も変わるのではないかと思います。ぜひ、アクションプランを子供たちの「確かな学力」の育成につなげていただければと思います。



研修会・研究協議会情報



講座名	月 日
○第2回学力向上研究協議会	11月 9日(火)
○学習指導研修会(「考える力」を育む授業づくり研究会)	
➢ 国語(高島町立高島中学校)	11月15日(月)
➢ 算数・数学(米沢市立第一中学校)	10月27日(水)終了
➢ 理科(長井市立豊田小学校)	12月 3日(金)

※詳しくはお届けする要項をご覧ください。新型コロナウイルス感染症予防の観点から、会のもち方については変更があることをご了承ください。

声をお聞かせください！

置賜教育事務所では、先生方の様々な疑問に「情報おきたま」や各種研修等で可能な限りお答えしたいと考えております。何か疑問に思っていること、もっと詳しく知りたいことなどがありましたら、右のQRコードからWebにアクセスして、お声をお聞かせください！



令和3年度 確かな学力を育むためのアクションプランの活用について

置賜教育事務所作成資料



「アクションを起こすこと」そして「その結果を検証すること」にこそアクションプランの意義があり、作成することが目的ではありません。児童生徒の学力向上に向けて育成を目指す資質・能力を全職員で共有し、学年や教科に関わりなく学校教育目標を具現化するためにアクションプランを活用し、日々の授業実践・改善につなげていきましょう。

アクションプランは、学校として育成を目指す資質・能力を明確にするとともに、学校組織としてPDCAサイクルを確立することを目的としています。その考え方をより明確にするため、「②児童生徒に付けたい力、資質・能力」の欄に、学校教育目標の欄があります。

【5月～8月（C評価）→（P計画）→（D実行）】
昨年度までの各種学力調査（客観的なデータ）や学校教育目標、児童生徒の実態把握等を踏まえ、「育成を目指す資質・能力」を明らかにします。

詳しい活用例は資料3をご覧ください

【8月下旬】
全国学力・学習状況調査結果が届きます。

【8月下旬～9月（C評価）】〈提出①〉→（A改善）
全国学力・学習状況調査の結果分析、取組の振り返りや児童生徒の見取りから「①調査問題、児童・生徒質問紙の分析等」の欄に加筆・修正を加えます。
評価したことを、全職員で共有し次の実践につなげることが大切です。

Form A-1 アクションプラン

学校名: _____ 記載者 職・氏名: _____

作成時: ①作成時 ②9月評価時 ③12月評価時 ④2月評価時

「確かな学力」の育成に向けて・・・つきたい力を明確にした、教科の本質に迫る授業の実践

①「調査問題、児童生徒質問紙の分析等」の欄にそのままいきてきます。つまり、アクションプランを加筆・修正してPDCAサイクルを回すことで、今年度の最後の姿を次年度の最初の姿にいかし、年度の早い時期から、全職員で学校の課題を共有することが出来ます。

②「つきたい力、資質・能力」を身に付けるために必要な指導・取組み等

③「2月末(C最終チェック)〈提出③〉1年間を振り返り、来年度への見直しをもちます。必要があれば、アクションプランの①に加筆・修正を加えます。」

④「12月末(C評価)〈提出②〉各学年(各学年部会)、教科部会で、今年度中にここだけは補充する必要がある教科・領域等を確認し、学年末の学びにつなげるようにします。また、必要がある場合には、アクションプランの①に加筆・修正を加えます。」

⑤「10月～12月(A改善)9月に評価をもとに修正・改善したアクションプランに取り組みます。」

学校教育目標

自らが学び、仲間とともにたくましく生きる生徒の育成

目指す生徒像

- 自ら学ぶ生徒
- 自らを省みる生徒
- 協働する生徒

研究主題

- 思考を深め、自ら成長を実感できる授業の開発

知識・技能

- 情報を的確に読み取る力

思考力・判断力・表現力

- 自分の考えを、根拠を明確にして表現する力

学びに向かう力・人間性

- 他者との関わりの中で考えを整理し、自分の考えを持つ力

調査から見た課題

相対的・相対的の中で自分の考えをまとめる

- 考えたことをわかりやすく表現する
- 問題や資料を的確に読み取る
- 根拠を明確にして説明する

付きたい力、資質・能力

知識・技能

- 情報を的確に読み取る力

思考力・判断力・表現力

- 自分の考えを、根拠を明確にして表現する力

学びに向かう力・人間性

- 他者との関わりの中で考えを整理し、自分の考えを持つ力

※2月末の最終チェックが来年度の「①調査問題、児童生徒質問紙の分析」の欄にそのままいきてきます。つまり、アクションプランを加筆・修正してPDCAサイクルを回すことで、今年度の最後の姿を次年度の最初の姿にいかし、年度の早い時期から、全職員で学校の課題を共有することが出来ます。

【2月末(C最終チェック)〈提出③〉1年間を振り返り、来年度への見直しをもちます。必要があれば、アクションプランの①に加筆・修正を加えます。

【1月～2月（A改善）】
12月の評価や児童生徒の実態からつまづきを把握し、補充学習等を行います。

【12月末（C評価）】〈提出②〉
各学年（各学年部会）、教科部会で、今年度中にここだけは補充する必要がある教科・領域等を確認し、学年末の学びにつなげるようにします。また、必要がある場合には、アクションプランの①に加筆・修正を加えます。

【10月～12月（A改善）】
9月に評価をもとに修正・改善したアクションプランに取り組みます。